

神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

A bit of memoirs

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-11-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐藤, 通, Satou, Toru メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/446

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



わずかな回想。

佐 藤 通

このたびは思いもかけず、私を本学の名誉教授に推挙して頂いて、感謝の言葉もありません。“そんな働きはしてないのに”というのが正直な感想ですが、“あそう、それじゃ止めにしよう”と撤回されそうなので、まず頂くものは頂いてから、と思い直したわけです。ともあれ、名誉教授号を本当にありがとうございます。温情あふれる措置に感謝の気持ちで一杯です。心から感謝いたしております。

さてこれからが本番とばかりに、本論に入る段階ですが、実は言うべきことが「何もない」ことに気がきます。

“何もない”なんて冗談でしょう、あなたが本学に就職した頃の話から始まって、その頃のスタッフや職員や学生の話、それにあなた自身の研究の進展や苦勞の話、など、その気になればいくらでも題材はあるでしょう。

ところが私は「脳内出血」を患って（2005年12月）、今でもリハビリがてら病臥に伏せているのである。おまけに私の過去（10～30年間）の記憶は、その大半が手術で消えてしまったようです。記憶がない期間はだまかに私が神戸市外国語大学に奉職していた時期の記憶に当たります。だから、私の記憶は基本的に「ない」のです。

もちろん完全に記憶が消えたわけではない。学長の木村栄一先生をはじめ約半数の教員は、名前だけでも覚えている。それに私がここに在籍したことや、学舎や、ごく少数の学生の名前も（何となく）記憶にある。私は京都に住んでいたから、阪神淡路大震災の被害は免れることができた。（しかし住

んでいた京都のアパート近傍の記憶は殆ど無い)。

ごく最近のこと(2009年5月)だが、私の古い家から約10~20年前の手紙類や証書の類が出てきた。その中に神戸市からの健康診断のお知らせ(2005年9月の日付)があり、私のガン検診の結果が書いてあった。私が見るのは初めてではないはずであり、また家の者は前に聞いたことがあるはずなので、目新しいことはないはずだが、記憶をなくした私が見るのは「初めて」である。それによると肺ガンの検診結果は「異常なし」だが、その3年前に腎臓の「全摘」手術を(京大病院で)していることが書いてあった。だが手術の記憶は消えているのである。

これを一例として私は、いろんな種類のガンを経験し、それらを切除したらしい。腎臓、骨ガン、それに脳梗塞まで「やった」ということである。これらの全部が私の記憶からは消失している。なお最近(病気後3~4年の間に)行ったその後の検査の結果は「異常なし」である。大腿骨の手術をしたため、右の手足が不自由であり、まだ入院生活をしているが、これらのガンは今は「休んでいる」らしい。すべては私が手術で記憶を無くした、つまりは脳内出血のせいである。

ガンが休んでいるなんてことがあるのだろうか。私のガンは私を欺いているのだろうか。

ともかく今、私は(多少の不自由さを除いて)生きているのである。この小康状態は、いつまで続くのか分からない。明日にでもガンが復活するかもしれない。私の余生はこのように“宙ぶらりん”なのである。

そこで、この時とばかりに、私の専門の物理学・天文学の勉強をしている。ここ病院でも読書だけは気兼ねなくできるのである。私の病室が個室であることも大きい。

病気発病(2005年12月)以来、大学は休校にしてもらっていた。これは申し訳ないとは言え、私にとっては大変有難い措置であった。

以降、何かその理由は分からないが「次元」(dimension)という言葉

が大変気になり始め、素粒子論の“超弦理論”関係の本を買い、読み漁っている最中である。これには本学の教授・長江裕芳氏の助力が大きい。超弦理論を勉強しているとの私からの知らせに対して、早々と『Dブレーン』（東大出版会）という本を送ってくれた。高次元物体を主眼とした超弦理論の格好のテキストである。こういう本があることを知らなかった私にとって、この本は今でも“座右の書”である。この他、多くの超弦理論の書物を読んでいる最中である。本は難しいが何とか理解しようと懸命である。近い将来、超弦理論の重鎮で、童顔の消えない、J. ポルチンスキー氏の『ストリング理論』（上下2冊）に挑戦しようと思っている。

超弦理論が「次元」の問題に深く関わっているのは、あらゆる素粒子がフェルミオン（普通の物質を作るもの）とボソン（代表的には光の粒である光子からなる）に分けられるからである。ところが（ここで理由は述べないが）、フェルミオンは10次元であり、ボソンは26次元である。これ以外の次元では理論に矛盾が生じるかららしい（この次元を臨界次元という）。次元の数え方ですでに大きなギャップがあるのである。次元のギャップを一時、棚上げにしたのは「漸近的自由性」という素粒子の性質が証明されたことによる。発見者たちは2004年のノーベル物理学賞を受賞した。この中断にもかかわらず“次元”のギャップは解決されないままである。

いま述べたことはまだ基礎的な事柄なのであろうが、私にはこの段階で大きな謎なのである。

私は今、超弦理論のことをほとんど最初から勉強するつもりでいる。これまで勉強したわずかなことは一旦忘れて、もう一度、ゼロから始める覚悟である。それくらい徹底しなきゃ私がかろうじて生きている意味がないのだ。

私は（少なくとも）70歳までは生きたいと思う。それ以上のことは（もしあるとしても）考えていない。

仮に明日私が死ぬことになっても、せめてその謎（次元の謎）への回答だけは、こっそり教えて欲しいと思うのである。

こんなことを言うなんて“私は少しおかしい”のかもしれない。